

放置された里山を整備し登山道の機能を取り戻した事例

事業名：里山林整備事業（景観保全型）

市町名：江田島市

取組のきっかけ・経緯

・かつては野登呂山から三高山にかけて遊歩道があったが、長年に渡って山の手入れがなされておらず、登山道としての機能が損なわれて、市民から「放置された里山林の整備をしてほしい」との要望が出されていた。

今後の展開

・事業が完了するまでに、あと3年程度はかかる見込みである。
・事業完了後には、広報誌などを活用し、新たな観光スポットとして広く周知していきたい。

取組の内容

- ・事業主体：江田島市
- ・実施場所：江田島市沖美町内
- ・業務委託先：広島県森林組合連合会
- ・業務量：0.63ha
- ・業務金額：3,905,000円
- ・業務期間：令和元年12月12日
～令和2年3月31日



取組後の感想

【良かった点】

・元々は斜面であったため歩きにくかったが、整備の際に切土や盛土を行ったことで、歩行がし易くなった。

【悪かった点】

・本事業は途中段階であり、看板等はまだ設置していない状況である。今後は看板等を設置し、ひろしまの森づくり事業を活用して里山林を整備したことを周知していきたい。

